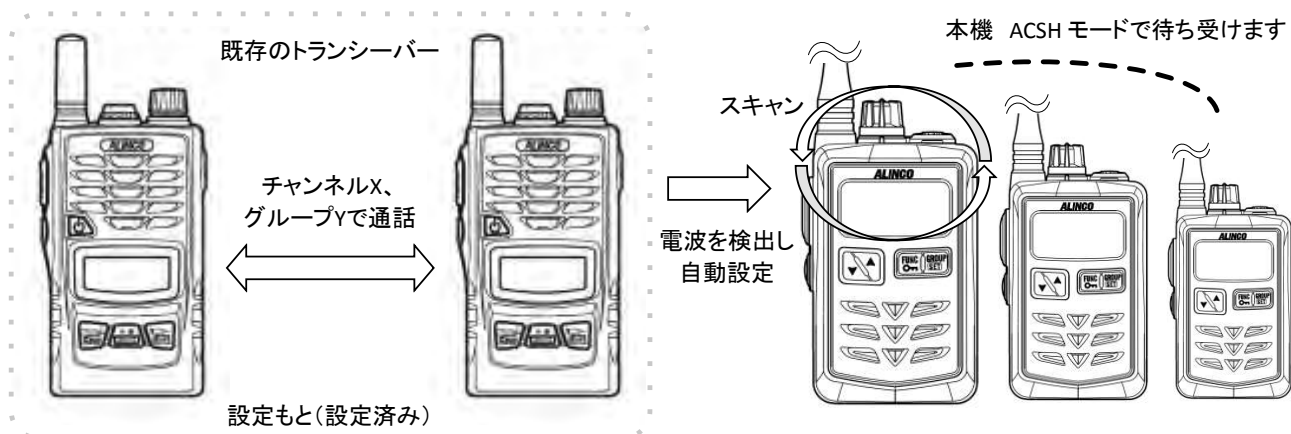
DJ-P321 その他の機能について

● ACSH モード

既に使用しているトランシーバーのチャンネルとグループ番号を検知して、本機に同じものを自動設定する機能です。手作業の手間と設定間違いが無くなるのでるので、多くのトランシーバーを使われる業務用途にはとても便利です。交互通話と中継通話、どちらにも対応でき、特定小電力トランシーバーであれば弊社製、他社製を問わず設定もと（設定済み）になるトランシーバー（以下、親機）にできます。

【使用前の注意】

・ACSH の自動設定は、外来電波による誤判定を防ぐため近距離でおこなってください。

・電波を検知し「ピピ」と鳴ってからは電源を切らないでください。正しく設定されないことがあります。ACSH モードを途中で停止したいときは電源を切ってください。故障の原因にはなりません。

・ACSH で設定中は親機のマイクに音声が入らないようにご注意ください。送信信号が乱れて判定できないことがあります。

・グループ番号のトーン周波数が近いものは動作が不安定になったり、誤判定したりすることがあります。（例：01・番「67.0Hz」と 39・番「69.3Hz」など）数回リトライしても ACSH できないときは、グループ番号を 01～38 番の範囲に設定してお試しください。

・グループトーク機能に DCS を使っているときは ACSH できません。

【ACSH の操作：交互通話（単信）】

ACSH モードで自動設定するトランシーバー（以下、本機）と、親機を準備します。親機はあらかじめ電源を入れておきます。

① 本機の電源を切った状態で【GROUP】キーを押しながら電源を入れ直します。【GROUP】キーを放さずに約 7 秒間押し続けます。ディスプレイに「ACSH」表示が点滅し、「ピピピピピ」という音が鳴ります。
この状態になったら【GROUP】キーを放します。

② 既にご使用中の親機を送信状態にして、本機に検知させます。数秒から最長で 2 分程度の時間がかかります。
メモ）複数を一度に ACSH できます。親機は PTT ホールド機能やイヤホンマイクの送信ロックを使って自動送信させておき、ACSH したい本機に全て、①の操作をします。

③ 電波を検知すると「ピピ」と鳴り、設定が完了すると

ディスプレイに「oooooo」が表示されて「プルル」音が
鳴ったあとで自動的に再起動します。

④ 再起動後、本機は親機と同じチャンネルとグループ番号になり、簡易キーロックがかかります。
本機と親機が正しく通話できるかテストしてください。テストが終わったら電源を切るか、実用
してください。

メモ）後から手動でチャンネルやグループ番号を変更する際は、FUNC キーを長押しして簡易キーロックを解除してください。FUNC キーを押しながら電源を入れる簡易リセットをすると ACSH で自動設定した内容を消去（初期化）できます。

【ACSH の操作：交互通話中継器（半複信）】

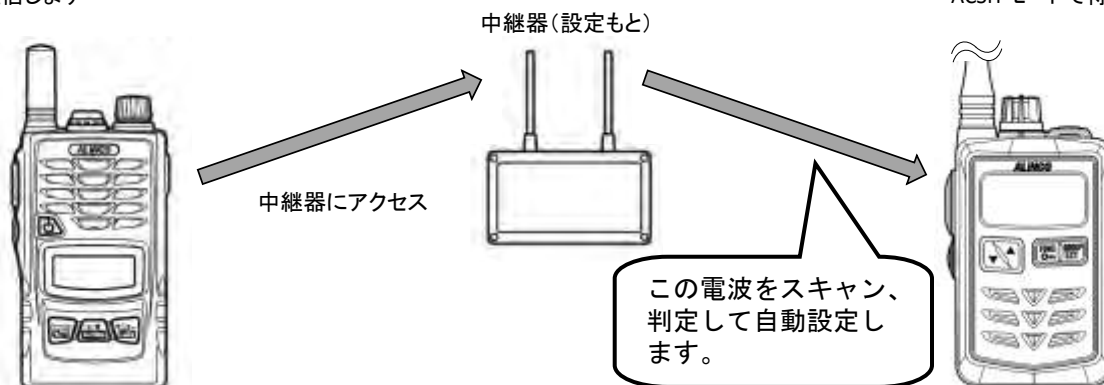
中継器 ACSH 時のご注意：

・中継器の周波数帯を A（440MHz 帯送信）に設定している場合は、自動設定できません。弊社製の中継器とトランシーバーは敢えて初期設定を変えていない限り、この周波数帯設定は気にせず ACSH できます。

・外来電波（他の中継器）による誤検知を防ぐため、ACSH 操作は中継器の近くでおこなってください。

・中継器からの電波をスキャンするときも使用前のご注意にあるグループトーンの相性問題が起こることがあります。起こりにくいトーンは 10～38 番です。

操作：

操作は前章と同じです。但し中継子機の ACSH は、親機では無く中継器が送信する電波を受信します。本機を前章①の操作で ACSH モードにして、既存のトランシーバーから中継器にアクセスします。中継された電波を本機に受信させてください。

●デュアルオペレーションモード

いつも使うメインとは別に、サブ用のチャンネルを登録しておくと、1 秒ごとに２つを交互に受信し、そのどちらとも通信することができるようになります。本機では、PTT も２つ
搭載しているので、任意に２つのチャンネルにアクセスできます。

【設定前のご注意】

1：サブ側をメモリー登録する際は、セットモードの EmG 項目（緊急通報機能）は OFF にしておいてください。

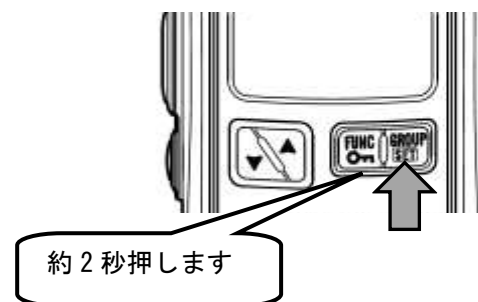
登録後は設定を ON にして緊急警報機能を使うことができます。

但し、チャンネルの状態にかかわらず緊急通報は常にメイン側で発報されます。

２：メイン側とサブ側が同じチャンネルだと、「E」表示が点滅してデュアルオペレーションは動作しません。必ず別のチャンネルに設定してください。

【設定】

① サブ側チャンネルをメモリー登録する

本機を操作して、サブ側にしたい内容に合わせます。
終わったら【GROUP】キーを約 2 秒押します。「b writE」
と表示され、登録されます。
サブ側には、メインとは別に下記の設定が登録できます。
中継チャンネルも登録できます。
・チャンネル　・グループ番号（DCS も登録可能）
・コンパンダー　・秘話のオンオフ（本体に設定してある
秘話周波数を使うかどうか、です。秘話周波数も含めて
メモリーすることはできません。）

② メイン側チャンネルを設定する

本機を操作して、メイン側にしたい内容(チャンネル番号、トーン番号
など)に合わせ、【PTT】キーを 1 回押します。
電源を切れば設定は終わりです。

※常にデュアルオペレーションモードを使うときは必ずキーロック
してください。(【FUNC】キー長押しで鍵アイコン点灯)
ロックしておかないと、再起動したときに通常モードに戻ります。

【運用】

デュアルオペレーションモードにする

【▼】キーを押しながら電源を入れます。

→「dUAL」と表示され、メイン側を「A」、サブ側を「b」として
交互受信（スキャン）が始まります。信号を受信するとスキャンが
停まり、そのチャンネルを受信します。信号が消え、別途設定した
時間が過ぎるとスキャンを再開します。(初期設定は約５秒)

⑤送信する

初期設定では【PTT】キーを押すとメイン側、【サブ PTT】キーを押すと
サブ側で送信できます。
セットモードの「サブ PTT キー割り当て」でサブ PTT キー
以外の機能を割り当てていると、【PTT】キーを一度押すと
メイン側、「ポン、ポン」と続けて二度押しすると
サブ側で送信します。

→通話が終了して設定時間（初期値約５秒）が過ぎ
ると交互受信を再開します。

⑥デュアルオペレーションモードを終了する

電源を入れ直します。

メモ）キーロックがかかっていると、電源を入れなおしてもデュアルオペレーションモードを継続します。

●リモコンモード

1 台の DJ-P321 をリモコンとして使い､対応中継器のチャンネルやトーン等の設定を遠隔操作で変更できます。

中継器 DJ-P101R、DJ-P111R 、DJ-R200D、DJ-U3R に対応しています。DJ-R200D は、別売の AC アダプター、EDC-122 が必要です。

【設定前のご注意】

・DJ-P101R/111R 中継器は、内部にある設定スイッチを全て下側（初期状態/OFF 側）にしてください。
　スイッチで設定されているときは、リモコン機能は動作しません。
・DJ-R200D は予め中継器モード（５）にした後、拡張セットモード 57 番「中継設定リモコン受付」を ON にして AC アダプターで電源を入れておきます。
・DJ-U3R は初期状態では電源を入れるとすぐに設定モードになります。事前操作はありません。
　設定済の DJ-U3R も下記の操作をすれば新しい設定に上書きされます。
・予めリモコンに使う DJ-P321 の操作を一通り行い、チャンネル、トーン、セットモード機能などが設定できるように慣れておきます。中継器の説明書のリモコン設定説明も一読してください。

<u>①中継器の電源を切る</u>

AC アダプターのプラグをコンセントから抜いて電源を切ります。

<u>②リモコンモードにする</u>

【▲】キーを押しながら電源を入れます。
→「rEnCon」と表示されたあと「r」が点滅します。

メモ）もしリモコンで設定が変わらないときは、内部スイッチの位置を確認してください。

③ <u>転送する内容を DJ-P321 に設定する</u>

・中継に使うチャンネルとグループトーン番号を本機に設定します。
必要に応じて、自動接続手順、ハングアップタイマー、アラームの各機能もリモコン設定できます。これらの機能の詳細は予め中継器の取扱説明書をご参照ください。

中継器の機能も設定したいときは引き続きお読みください。
不要であれば次のページの④からお読みください。

<u>リモコンモード中にセットモードにする</u>

【F】キーを押しながら【GROUP】キーを押します。
→「At-on」が表示されます。
【GROUP】キーを押すごとに項目が切り替わります。
「At-on」→「HuP-00」→「AL-oF」

・自動接続手順「At」の設定

初期状態は ON に設定されています。
中継器側を OFF にする場合、本機の設定も OFF にしてください。

・ハングアップタイマー「HuP」の設定

初期状態は 00(0 秒)に設定されています。
0 秒/0.5 秒/1.0 秒/2.0 秒から選択します。
送信が終わっても、設定したタイミングの時間は中継動作を継続します。

・アラーム機能「AL」の設定

初期状態は OFF に設定されています。
ON にすると中継動作の終了をビープ音でお知らせします。

▲/▼キーを押して選択する

ON/OFF/または設定値を選択します。

【PTT】キーを押す

PTT キーを押すと設定値が反映されます。

④転送する

【PTT】キーを約 2 秒押します。「ピピッ」音が鳴り、中継器への転送がスタートします。
転送中は「SEnd」が表示されます。

⑤中継器の電源を入れる

DJ-P321 が転送状態になったら中継器の AC アダプターをすばやく
コンセントに挿します。転送中は「Send」が表示されます。

数秒後、転送が完了すると「〇〇〇〇〇〇」が表示され、
本機から「プルル」音が鳴ります。

メモ）転送完了後、中継器は自動的に再起動します。
再起動後 20 秒間は初期化がおこなわれ、
その後中継器として使用できます。

⑥本機の電源を入れ直す
中継通信モードに戻り、中継器を介して通信することができます。

●最適チャンネルサーチ

DJ-P321 で通話できるチャンネルをすべて自動受信（サーチ）して、使用頻度を表示できます。お使いになる環境であらかじめこの機能を使って使用頻度の少ないチャンネルに設定すれば、混信しにくくなります。

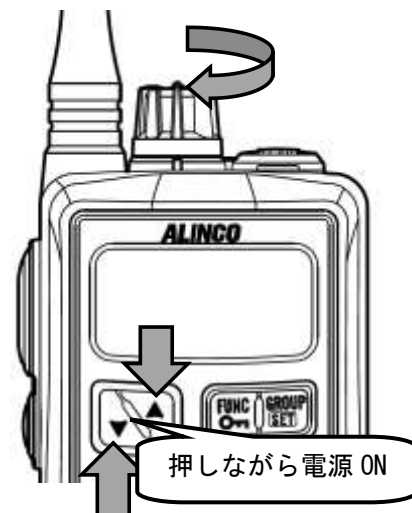
① 最適チャンネルサーチモードにする

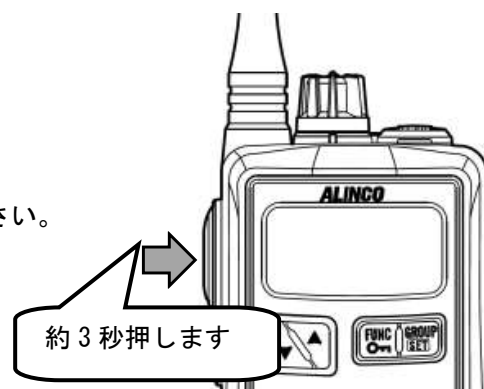
【▲】【▼】キーを同時に押しながら電源を入れます。

「bStScn」と表示されたあと「L01.　0」表示され、チャンネルが 0.5 秒
ごとに自動的に切り替わり、受信信号が有るかどうかサーチします。

② 本機を一時的に設置する

通話する人が一番多いエリア、または通話したいエリアの中央に立てて
置きます。最低でも１０分程度スキャンされることをお勧めします。

③ スキャンを止める
【PTT】キーを約 3 秒押します。「プププ」音が鳴ってチャンネル
サーチが止まり、「L01.（数値）」が表示されます。

使用頻度を確認する
【▲】【▼】キーを押して、チャンネルを切り替えていき、
チャンネルの右側に表示されている数値を確認します。
数値が大きいほど使用頻度が多く、低いほど小さくなります。

メモ）再度サーチを行う場合は、もう一度【PTT】キーを約 3 秒押します。
その場合、現在の測定結果は初期化されて消えますのでご注意ください。

通話モードに戻る
本機の電源を入れ直して通話モードに戻り、使用頻度が「0」の
チャンネルに設定します。

【精度の高いサーチをする】

中継器を設置するなど、なるべく長く決まった設定を使いたいときは、より精度の高いサーチをお勧めします。

・通話エリア内に、離れた複数の多用場所（厨房とホール、レジとバックヤード…）があるときは全部の場所をサーチしてください。片側のエリアだけが混信を受けることがないか、確かめるためです。

・周囲に特小無線を使いそうな場所（スーパーやチェーン店など中規模店舗、飲食店、クリニック、ヘアサロン、ケータイショップ、工事現場…）があれば、それらの営業時間に合わせてサーチします。時間帯を分けて複数回サーチすればさらに効果的です。

【ご注意】
・窓際や通話エリア内で一番見通しの良い場所に置くと、遠くからの外来電波も拾いやすくなります。実用エリア内では混信を受けなくなることもありますが、目安として「ここは使っている可能性が高いな…」の判断がしやすくなります。

・本機能はあくまで空きチャンネルを見つける目安としてお使いいただくものです。時間や曜日、場所によってサーチの結果が変わることがあり、たまたま近くでその日だけ通話するグループがあった、というようなこともあり得ます。このため、サーチによる空きチャンネル判定の精度は保証できません。

・使用頻度が高いと判定されたチャンネルの上下のチャンネルは、使用頻度が「0」でも実用を始めると混信しやすい可能性があります。「0」が離れたチャンネルにもある時はそちらを選んでください。
（例：L05 に使用頻度が高い数値が出たら、L04、L06 の頻度が低くても避ける。L07,L08,L09 もゼロなら L08 を選ぶ方が混信の可能性は低くなる。）

・チャンネル「L01」「b01」「L10」「b12」はメーカーを問わず初期値のチャンネルに設定されがちです。このため、このまま使うユーザーが非常に多いことから、これらのチャンネルはサーチの結果にかかわらず避けておくことをおすすめします。

・サーチ中はバッテリーセーブが働かないため、電池の消耗が早くなります。電池残量に余裕のある状態で行ってください。また、サーチ後に通常モードに戻す時は新品（充電完了）の電池に交換することをおすすめします。（セットモードで敢えて変更していない限り、通話モードに戻るとバッテリーセーブも動作します。）

以上

アルインコ（株）電子事業部